様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：２２５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ１１７１２

研究課題名（和文）健康障害をもつ子どもときょうだいがいる家庭の子育て力支援ガイドラインの開発

研究課題名（英文）The program development for improving child-rearing skills of mothers with children with health problems and their siblings

研究代表者
石川　紀子（Ishikawa, Noriko）

千葉県立保健医療大学・健康科学部・講師

研究者番号：７０３１２９６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：　健康障害をもつ子どもとそのきょうだいを育てる母親の子育て力向上を目指し、研究者からの情報提供・テーマに関する状況の振り返り・参加者同士のグループディスカッション・きょうだいへの関わりについての目標設定の４つで構成された、合計3回実施するプログラムを開発し、その効果を検討した。
　プログラムには2グループ計14名の母親が参加し、プログラム参加時の母親の考えや、プログラム参加後のきょうだいへの関わりの行動を検討した。プログラムへの参加により、参加者はそれまで意識していなかったきょうだいの日常生活や気持ち、自身の行動等に気づくことができるようになっていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　現在の日本の医療制度では健康障害をもつ子どものきょうだいへの関わりの機会を持つことが難しく、直接的な支援が行き届きづらい状況にある。今回の研究は母親への支援を通してきょうだいに働きかけるものであるが、きょうだいの日常生活に生じている影響を軽減することにつながると考えられる。
　健康障害をもつ子どもの母親への支援の現状として、母親が健康管理の知識を習得することが主眼に置かれている。本研究で開発したプログラムを用いた支援により、子どもの健康管理だけでなく、健康障害をもつ子どもときょうだいを含めた母親の子育てを支援することにつなげていくことができる。

研究成果の概要（英文）：　The aim of this study was to develop a program for improving the child-rearing skills of mothers with health problems children and their siblings, and evaluate its effect.This was an intervention study that followed a group with a pre-posttest design without a control group. There were two groups,14 mothers participated in the study.The intervention program consisted of different themes each time, 90 times in total, delivered as three programs, consisting of the following four items.
　By participating in the program, mothers were able to be aware of the effects on everyday life that occur in the siblings and the feelings they have. In addition, it was possible to notice the characteristics of the mother's own relationship with the siblings.

研究分野：小児看護学

キーワード：健康障害をもつ子どものきょうだい　子育て　家族支援　きょうだい支援

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

子どもの健康障害は子ども自身だけでなく、その家族の生活にも様々な影響を与える。特に健康障害をもつ子どものきょうだい（以下、きょうだいとする）は、日常生活や家族関係の様々な変化を経験し、心身の不適応や行動上の問題を生じやすいことが、国内外の文献で報告されている（泊，2008）（Murray，1999）。そこで、我々はきょうだいに起こっている影響を明らかにすることを目的に、小児専門病院に入院中の子どもをもつ家族を対象に調査を行った。その結果、約６割のきょうだいは多様なストレス反応（情緒・行動面、体調面、学校生活面）を示しており、年齢が低いほど変化の現れる割合が高かった（石川他，2010）。また、母親の身体・精神的状態が共に良い場合でも、約半数のきょうだいにストレス反応がみられた（堂前・石川他，2011）。また、きょうだいが精神的に混乱し情緒不安定な場合でも、親が気づきづらい傾向も示唆され、これらの結果から、親が健康障害をもつ子どもだけでなくきょうだいの変化にも目を向けられるような支援が必要と考えられた。

健康障害への配慮が日常的に必要な子ども（以下、病児とする）とそのきょうだいのなかで、日常生活の中で継続的に配慮が必要なアレルギー疾患をもつ子どもでのきょうだいが経験した生活上の変化・家族関係の変化についての調査では、病児の治療のため、共に生活を送るきょうだいは、それまで食べていた食事や好みの食材が食べられなくなる等の食生活の変化、食事を介しての友人家庭との交流や外食・買い物の機会が減少する等の社会生活の変化を経験していた。このような生活上の影響は長年に渡るため、きょうだいの心身・社会性の発達に大きな影響を及ぼすと予測された。さらに、第一子に病児がいる場合と、第二子以降に病児がいる場合の両家庭を対象としたが、前述の影響や、親からきょうだいの関心や関わる時間の減少などの家族関係の変化は、第二子以降に病児がいる家庭に特徴的であった。通常の育児と異なり、日常生活で健康障害への配慮をしながらの育児は、第一子の時の知識や経験を活かすことが出来ないため、親は戸惑いながら病児ときょうだいを育てていることが推察された。

以上のことから、きょうだいに生じている生活の変化への適応に向けた支援として、きょうだいへの直接的な支援の必要性があると同時に、「健康障害をもつ子どもとそのきょうだいを育てる家庭の子育て力」を支援する必要性があると考えられた。

２．研究の目的

本研究は、健康障害をもつ子どもとそのきょうだいを育てる家庭の子育て力向上を目指した支援ガイドラインを開発することを目的とし、以下のことを実施する。

１）健康障害をもつ子どもとそのきょうだいを育てる家庭の育児の特徴と援助ニーズに基づき、健康障害をもつ子どもとそのきょうだいを育てる家庭の子育て力の向上を目指した支援プログラムを開発する。

２）支援プログラム沿った支援の実施と、実用化に向けての評価を行う。

３．研究の方法

１）支援プログラムの開発

健康障害をもつ子どもとそのきょうだいを育てる家庭の子育て力の向上を目指したプログラムの作成に向け、健康障害をもつ子どもとそのきょうだいを育てる家庭において、きょうだいに生じる生活の変化、きょうだいの育児を行う中で親が感じる困難について、国内の関連文献の検討を実施した。

またプログラム立案に向け、プログラムの構成要素およびその内容、プログラム実施回数、

プログラムの実施時間、プログラムで用いるツール等について、国内の関連文献の検討を実施した。

以上の文献検討を基に作成したプログラム案について、その妥当性を確保するため、専門家会議を開催し、プログラムの構成や概要の検討を実施した。会議で出された意見を基に内容を修正し、支援プログラムとした。

２）支援プログラムの実施と評価

今回の研究では、日常生活のなかで継続的に配慮が必要な食物アレルギーをもつ子どもとそのきょうだいを育てる母親を対象とし、患者会および A 県内の保育施設に研究協力を依頼し、研究参加者の募集を行った。

研究対象となった参加者は、6 から 8 名を 1 グループとした 2 グループの 14 名の母親で、１回 90 分で、合計 3 回から構成されるプログラムに参加してもらい、開発した支援プログラムに沿って支援を実施した。

プログラムの効果を検討するための調査も実施した。調査内容は、対象者や子どもの背景、食物アレルギーを持つ子どもの症状、プログラムに対する意見で、質問票を用いて調査した。また、プログラム参加に伴う対象者の考えや行動を調査するため、プログラム実施時の対象者の発言内容についてもデータとして収集した。以上のデータより、各回のプログラムの目標の達成状況、プログラム参加後の母親の行動の変化について、分析した。

４．研究成果

プログラムへの参加により参加した母親は、子どもの健康障害によるきょうだいに日常生活への影響、心理面の影響、子どもの健康管理に関するきょうだいの協力など、それまで意識していなかったきょうだいの状況について気づくことができるようになると共に、母親自身のきょうだいに対する行動についても気づくことができており、「きょうだいが置かれている状況や自身の関わり」について振り返ることができるようになっていた。またプログラムに参加し、きょうだいの生活や心理状況に注目し、 きょうだいへの関わりを行う場合でも、母親は健康障害をもつ子どもの治療に必要な配慮を行うことを前提とした行動を取ることができていた。

これらの結果より、健康障害をもつ子どもとそのきょうだいを育てる母親の子育て力は、プログラムへの参加を通して向上していったと考えられた。今回の研究で開発したプログラムを、地域のクリニックを受診する母親を対象とした集団教育のプログラムとして用いることや、患者会主催のワークショップのプログラムとして活用していくことで、健康障害をもつ子どもとそのきょうだいを育てる母親の子育て力の向上を目指した支援につなげていくことができると考えられた。

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計 0 件）
〔学会発表〕（計 0 件）
〔図書〕（計 0 件）

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：西野　郁子
ローマ字氏名：NISHINO　Ikuko

所属研究機関名：千葉県立保健医療大学
部局名：健康科学部　看護学科
職名：教授
研究者番号（8 桁）：80279835

（平成 27～28 年度まで）
研究分担者氏名：齊藤　千晶
ローマ字氏名：SAITO Chiaki
所属研究機関名：千葉県立保健医療大学
部局名：健康科学部　看護学科
職名：助教
研究者番号（8 桁）：70347376

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。